

支部研修会から



『名鉄電車の歴史』



宮川安江

愛知県近郊の鉄道は、おおむね名鉄資本傘下で経営されてる。

今回鉄軌道事業部門の沿革をホームページ及び名鉄社史より引用して名鉄の歴史を散策いたしました。

名鉄は明治 27 年愛知馬車鉄道として発足以来、明治 29 年名古屋電気鉄道と社名を改め、明治 31 年に笹島（名古屋駅前）～県庁前間、我が国 2 番目の電気鉄道を開業しました（1 番目は明治 28 年京都）。

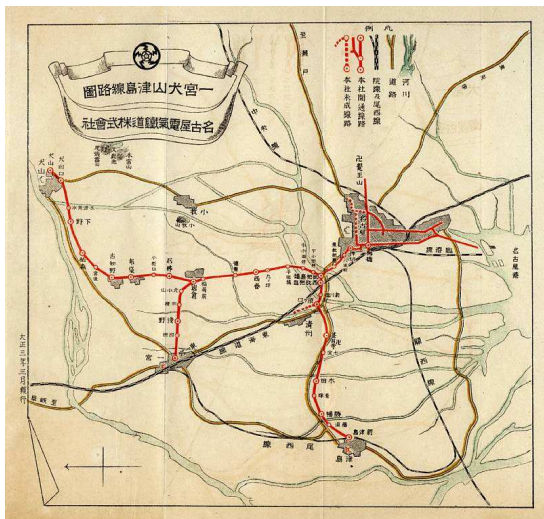


愛知馬車鉄道 電気鉄道敷設特許状



名古屋電気鉄道本社前を行く 1 号型電車

その後、市内線の拡充と共に尾張北部に郊外線建設を進め、大正元年に枇杷島～西印田間及び岩倉～犬山間を開通させた。



この時期には、尾西鉄道・美濃電気軌道・愛知電気鉄道など尾張、岐阜、三河の各地に数多くの鉄道路線会社が開業しまし

た。

○尾西鉄道 津島～弥富



（尾西鉄道津島駅）



（明治村に保存）

○美濃電気軌道

M44. 2. 11 美濃電気軌道 岐阜駅前～今小町、神田町～上有知開業



○愛知電気鉄道

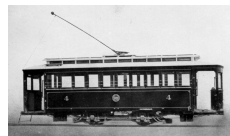
・M45. 2. 18 愛知電気鉄道 伝馬町～大野開業



○長良轻便鉄道 長良～高富



○岐北轻便鉄道 忠節～北方



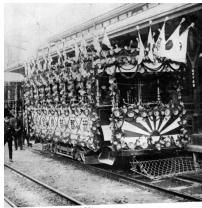
(岐阜方面の
鉄道路線)



○瀬戸自動鉄道 矢田～大曾根～瀬戸
土居下～黒川
(セルポレー式
蒸気原動車を走らせた)



名古屋電気鉄道は、大正 10 年に郊外線を
を引き継ぐ新会社の名古屋鉄道を設立し、
翌 11 年に、市内線を名古屋市に譲渡した
後、名古屋電気鉄道は解散しました。



(郊外線全通祝賀式)
(大正 3 年岩倉駅)

その後、名古屋鉄道は、昭和 5 年に美濃
電気鉄道と合併し名岐鉄道と社名を変え、
同 10 年には各務原鉄道を合併し、押切～
新岐阜(現名鉄岐阜)間を開通によって、
尾張地区全体に路線網を持つ鉄道会社にな
りました。

(押切町駅)



さらに同年に神宮前～吉田間・常滑間に
路線を持つ愛知電気鉄道と合併して名古屋
鉄道と社名を変え、営業キロ 360.6 キロ、
電車 277 両を持つ全国屈指の私鉄になり、
現在の基礎ができました。

昭和 16 年、新名古屋駅(現名鉄名古屋
駅)を開業した頃から、戦時色が次第に強
くなり交通統制が進み、瀬戸鉄道・三河鉄
道・知多鉄道など各地の中小鉄道を次々と
合併していきました。そして、戦中戦後の
混乱を乗り越え、昭和 23 年に豊橋～新名

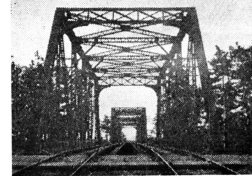
古屋～新岐阜の直通運転が実現しました。



新名古屋駅(昭和 16 年)

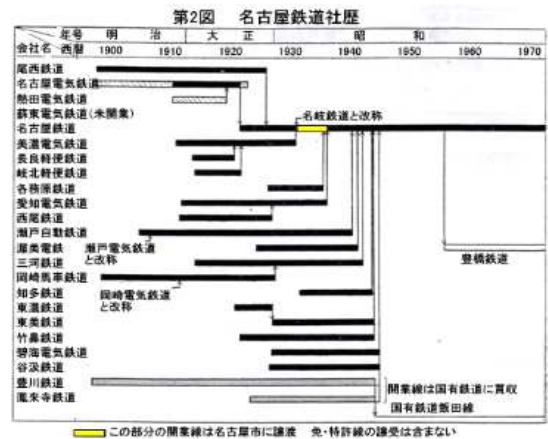


(枇杷島橋建設)



(完成枇杷島橋)

枇杷島橋りょう 当時 川の中に中
洲(昭和30年ごろとり除く)があり
橋りょうのトラスは2分されていた



経済復興が進むにつれて高性能車両の投
入が盛んになり、同 34 年に全国初の通勤
型冷房車 5500 系、同 36 年には全面展望車
7000 系(パノラマカー)を新造するなど、
その後も、積極的に車両更新を進め、現在
では、省エネタイプの 3300 系をはじめ代
替が進み、快適性も大幅に向上しました。



(5500 系)



(7000 系)



(3300 系)



(2000 系ミュースカイ)

路線網については、昭和 53 年に瀬戸線
栄町乗り入れ、同 54 年に豊田線開通、同 55
年に知多新線全通、同 57 年に羽島線開通、

平成5年に犬山線と地下鉄鶴舞線との総合直通運転を開始、同15年に小牧線と地下鉄上飯田線との総合直通運転を開始しました。また、平成17年には空港線が開業し、

現在では、名古屋を中心として愛知、岐阜両県下にまたがる444.2キロの鉄軌道路線を有しています。



●名鉄の歴史

『コーヒーはがんから身を守る』

ハーバード大学公衆衛生大学院の論文によると、コーヒーは、がん細胞が発生した瞬間から死に至るまで、がん細胞と総合作用する可能性があるとのこと。コーヒーにはポリフェノールが含まれており、これが動物のがんの成長を遅らせたり、防いだりすることが研究で示されています。

さらに、コーヒーには炎症を抑える効果があり、いくつかのタイプのがんに関連するホルモンであるエストロゲンのレベルを下げることもつながっています。さらに、コーヒーが胆汁酸の生成を促進し、消化のペースを上げることで、大腸組織への発がん物質の暴露を抑えることができるとされています。

コーヒーにはクロロゲン酸が多く含まれており、インスリン感受性を高め、血糖値を下げる働きがあるとされ、内因性のインスリン感受性を高める役割を果たすアディポネクチンの血漿レベルの上昇と関連している可能性があるといえます。コーヒーに含まれる植物性抗酸化物質は、酸化ストレスや炎症によるダメージから細胞を保護し、特定のがんの成長を抑制すると考えられています。

カフェインの摂りすぎは、睡眠を妨げたり、偏頭痛を引き起こしたり、消化器系の問題を引き起こしたりします。また、コーヒーのクリームや砂糖を入れて飲むと、脂肪分やカロリーが増えて体重が増加し、多くの種類のがんのリスクが高まると警告を出しています。